

HPづくりはアナログな仕事

近藤武デザイン事務所

近藤代表



近藤代表

【三重】会ってほしいデザイナーが四日市市にいる。同市を拠点に広い範囲での活動を続いている「近藤武デザイン事務所」の近藤武代表、その人だ。

同事務所は設立して7年。クライアントの紹介を中心に多くの企業ホームページを手掛けるなか、近年は運送業者から

（川北正美社長、四日市市）などのホームページも同事務所の制作で、「こちらの要望やイメージを汲み取って、それを形にしてくれている」とカワキタエク

（山市）や中日本陸運（川北辰実社長、龟山市）などのホームページも同事務所の制作で、「こちらの要望やイメージを丁寧なヒヤリングと独自の感性で事業者自身も気付けていたかったようなアピールポイントや好材料を抽出。最大限引き出されたその魅力を効果的な形で発信すること」で、企業に大きな付加価値を与えていく。

ホームページの充実は運送業者自身のプランディングにも直結していることが、供に尋ねられ、「こ

の需要の高まりを受けて業界との接点も広がってきた。カワ

キタエクスプレス（ス

ペエレスの川北社長も、その仕事ぶりを評価する。

「第三者目線で、その会社の強みは何

のかを確認する」というスタイルは、

「いかに人間を意識するか」とい

う点にあると近藤代表は語る。「ホーム

ページづくりはデジタルな仕事だと思われるが、人間と人間がしっかりと組み合って意見を出し合っているのが、人間と人間がしっかりと組み合って意見を出し合っている」という言葉には、代

表ならではの強い説得力がある。

また、代表は「お父さんの仕事ってどういう仕事?」と子

の「デザイナーとは結局のところ情報整理。ヒヤリングでのところも特別なものとなるだろう。

採用や企業イ

ンフードの勇ましい姿

に『格好いい仕事』やつて『いい仕事』と言われば、『いい仕事』

が、すでにデザイン

とホームページづくりにおけるヒヤリングの重要性についてととなるが、その制作過程で重要視すべく、つまりはヒヤリングという行為自体

が、すでにデザインされ始めた」と近藤代表。

今回のインタビューでは、代表の口から発せられるだけのものではなく、社内やその家族への印象的な言葉

から学ばされること多かったが、ホームページの持つ重要性があらためて見直され始めている今、報紙とほ、アナログな人間性に支えられて「有効なデジタル情報」とは、社員にも自分にとっても大切な場所。良いホームページだけのものではない。

「デザイナーとは結局のところ情報整理。ヒヤリングでのところも特別なものとなるだろう。